

パチルス・サブチリス由来のオキサレート脱炭酸酵素、組換え型

Cat. No. NATE-1688

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明

オキサレート脱炭酸酵素（OxdC、EC4.1.1.2）は、マンガンを含む酵素で、シュウ酸とオキサレートを分解します。OxdC触媒により、オキサレートはフォルミル酸とCO₂に分解されます。この酵素は、炭素-炭素結合を切断するカルボキシーリラーゼに特に属するリラーゼのファミリーに属します。この酵素クラスの系統名はオキサレートカルボキシーリラーゼ（フォルミル酸生成）です。この酵素はオキサレートカルボキシーリラーゼとも呼ばれます。酵素は2つのカビンドメインで構成されており、それぞれにMn（II）イオンが含まれています。この酵素はグリオキシレートおよびジカルボキシレート代謝に関与しています。この酵素は、血液および尿中のオキサレートの臨床アッセイ、治療法、プロセス産業、食品および環境中のオキサレートレベルを下げるための農業など、さまざまなバイオテクノロジー応用における診断に認識されています。パチルス・サブチリスの配列から作られた組換えタンパク質には、N末端ヒスタグを持つOxdCが含まれています。

別名

オキサレートカルボキシルーゼ; EC 4.1.1.2; オキサレート脱炭酸酵素; OxdC

製品情報

種	パチルス・サブチリス
由来	E. coli
形態	液体
製剤化	50 mM NaOAc、pH 5.5で。活性化は10 mM MMTSの添加によって停止され、還元条件下で除去することができます。
EC番号	EC 4.1.1.2
CAS登録番号	9024-97-9
分子量	45.9 kDa
純度	> SDS-PAGEによる98%
活性	150U/mg
濃度	2 mg/mL
単位定義	1単位は、37°Cで1.0 μmoleのNADHを生成する酵素の量です。特定の活性はU/mgタンパク質として表現されました。

保管・発送情報

保存方法	-20°Cで1年間安定。長期保存の場合は、分注して-70°Cで保存してください。繰り返しの凍結と解凍のサイクルを避けてください。
------	--